

# 日本英学史学会 中国・四国支部

## ニューズレター

No.82

*Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter*

<エッセイ>

### 齋藤秀三郎『熟語本位英和中辞典』刊行 100 周年

竹中龍範

本年 2015 年は、大正 4 (1915) 年に齋藤秀三郎の名著『熟語本位英和中辞典』が刊行されてちょうど 100 周年に当たり、その記念企画も予定されていると漏れ聞いているが、この「英和中辞典」が、初版刊行時、2 分冊であったことは存外知られていない。筆者はあいにくその第 2 巻 M-Z の部しか蔵していないが、第 2 分冊と言いつつ、中扉に加え、PREFACE 等の前付けを置いているのは珍しい。これが合冊本になったものは、その装丁、大きさにおいて COD 初版 (1911) に瓜二つである。但し、合冊 1 巻本も初期のものは厚手ボール紙をくるんだハードカバーであるが、後には軟クロス装になっているので、後者からはこのような印象は得難い。

このような装丁とは別に、この「英和中辞典」の評価を高からしめているのは、その書名にある「熟語本位」という、齋藤が idiomology と称した 'Words are nothing in themselves, and everything in combination. In the case of words, combination comprises construction and association.' (Preface) との考えに基づき、さらに、'The dictionary required is one that shall be the *ne plus ultra* of accurate translation, with the definitions in rational, systematic, genetic order — each word being presented in all its idiomatic, conventional, and proverbial associations.' (do.) という主張を展開したその内容である。齋藤は、語はあくまでも語の組み合わせにおいて理解されるべきであり、かつ、それは日本語の訳文においても同じであるとする。本書の訳文がこなれていることはつとに定評のあるところであり、翻訳を業とする人たちが本書を愛する所以である。

30 年近く前、英国レディング大学に留学していた際に、ともに経済学部で留学の N 氏、I 氏と親しくなったが、ある時、談たまたま辞書の特徴に及んだことがあった。筆者が、どの辞書もそれぞれ特徴があり、それをおさえた上で使わないとせっかくの宝の山がごみの山になってしまうと、いくつかの辞書を挙げて紹介し、そこでこの齋藤『熟語本位英和中辞典』を挙げてその訳振りの面白さを話したところ、N 氏が大きく頷いて、若いころに恩師から勉強になるからと勧められて経済学書を訳したことがあったが、その時にこの「英和中辞典」がとても役に立った、特に訳のコツと言うものを教えられたとの思い出を披露された。

この時に併せて紹介したのが、後に「英和中辞典」の著作権譲渡を受け、その改訂版を戦後も刊行し続けた岩波書店が刊行した『岩波英和辞典』(1936) である。語義を *NED(OED)* に倣って歴史的順序に並べているので、現在最もよく使われる語義を先に置くという形をとっていないと話したところ、今度は I 氏が、「ああ、それで。実は、大学時代の恩師がカナダに留学の際にその辞書を持って行ったのですが、必要な訳語がなかなか出てこないで放ってしまったと話しておられました。今初めてその理由が分かりました」とのこと、これで謎が解けたと納得された様子であった。この「岩波英和」も来年が刊行 80 周年である。

(香川大学／日本英学史学会中国・四国支部副支部長)

日本英学史学会 中国・四国支部  
平成27年度 総会・第1回(通算72回) 研究例会のご案内

拝啓 新緑の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当支部の発展のために温かいご支援とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、平成27年度支部総会、及び第1回(通算第72回) 支部研究例会を下記の要領で開催いたします。今回の研究例会では、講演ならびに研究発表が予定されています。お誘いあわせの上ご参集くださいますよう、ご案内申し上げます。末筆ながら、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。 敬具

日本英学史学会 中国・四国支部

日時： 2015年5月23日(土) 12:30 受付開始  
会場： 安田女子大学 9号館 9523 教室(5階) (アストラムライン安東駅より徒歩4分)  
〒731-0153 広島県広島市安佐南区安東 6-13-1 TEL 090-1185-4814 (会場担当 松岡携帯)  
参加費： 会員、非会員とも無料

支部総会 (13:20~13:50)

議長選出、前年度活動報告、会計報告、会計監査報告、平成27~28年度役員選出、新年度活動計画、他

開会行事 (14:00~14:05) 支部長挨拶

講演 (14:05~15:25)

「英学史研究と私」

田中 正道 (広島大学名誉教授)

日本英学史学会中国・四国支部設立時からの会員である私は、本学会にその後の私を育てて頂いたと言っても過言ではない。本講演において以下の項目について言及してみたい。

はじめに：高梨健吉先生との出会い

1. Wilhelm Viëtor 研究がとりもつ縁：A.P.R.Howatt (The University of Edinburgh) との出会い
2. Harold E. Palmer 研究がとりもつ縁：Richard C. Smith (The University of Warwick) ならびに YU-YING BROWN 女史 (THE BRITISH LIBRARY) との出会い
3. 哈爾賓学院研究がとりもつ縁：哈爾賓学院連絡所 「アブローラ (ABPOPA)」
4. 「専検」研究がとりもつ縁：高橋一清氏 (松江観光協会観光文化プロデューサー) との出会い

おわりに：「中国・四国支部」に育てられた「広島っ子」

研究発表 (15:40~16:40)

「小泉八雲のオープン・マインド、広高師 浅地昇先生を通して継承」

古川 正昭 (広島ラフカディオ・ハーンの会)

広島ラフカディオ・ハーンの会の目的は小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が残した文化伝統を他の地域と連携し広島で学習、顕彰を継承していくことです。2014年はオープン・マインドというテーマで小泉八雲没後110年記念行事があり、私もギリシヤ、レフカダでのイベントに参加しました。そのことで、テレビ、ロコミ、ネット通信で周囲の人と共感的な交流がありました。私の高校時代の恩師もその一人です。ハーンの会の創立者、故広島大学名誉教授、田村一郎先生の論文で紹介された浅地昇先生(広高師)を、その恩師からも知りました。これは、ハーン文学の継承が、新旧世代相互的に行われてきたことの報告です。

閉会行事 (16:45~17:00) 副支部長挨拶、写真撮影

懇親会 (18:00~20:00)

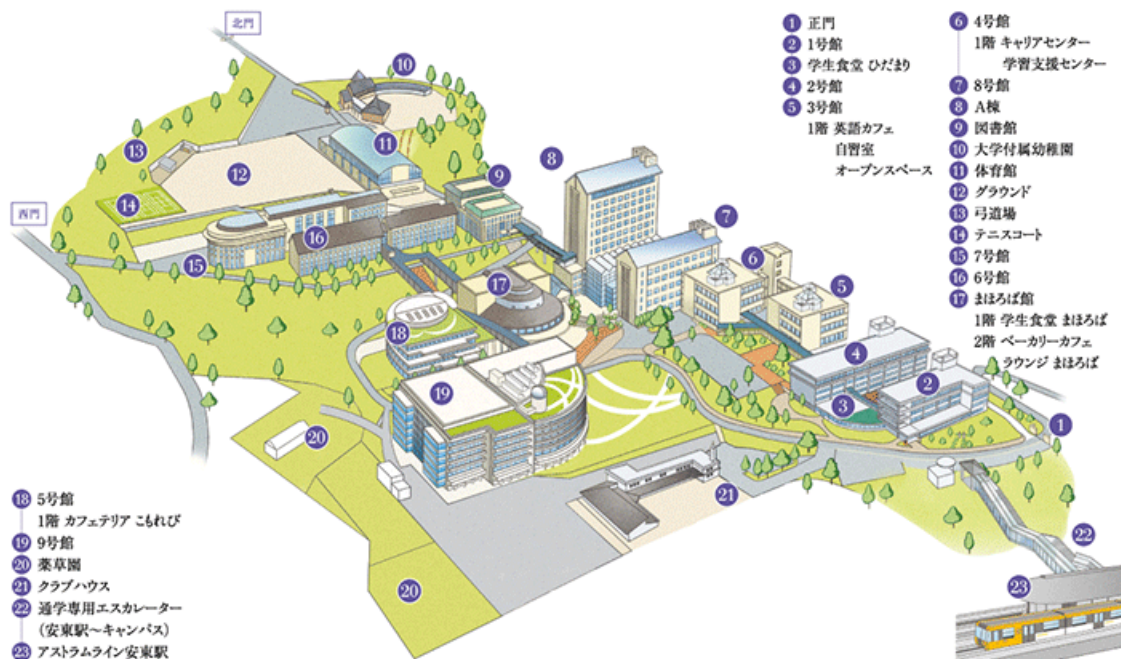
広島別邸 花の舞 広島南口店 ◇会費 3,500円 <要事前申込。直前の変更には対応できない場合があります。>  
広島市南区松原町10-1 広島フルフォーカスビル B1 (広島東郵便局向い) TEL 050-5788-1475

**研究例会会場への交通案内**

(以下、安田女子大学ホームページ <http://www.yasuda-u.ac.jp/>より)



**キャンパスマップ**



会場の9号館は、上図19番の校舎です。アストラムライン安東駅からは、専用エスカレーター(22番)をご利用ください。

## 中国・四国支部ニュース

≫ 事務局よりお知らせとお願い

### ①名簿の改訂について

「会員登録確認票」をお届けします。変更のある方は5月19日(火)までにお知らせください。合わせて、総会・例会・懇親会(5月23日)の出欠について、ご回答をお願いします。

### ②会費の納入について

5月23日(土)の支部総会、研究例会へご参加の方は、平成27年度年会費(一般3,000円、学生2,000円)を受付でお支払いください。その際に『英学史論叢』第18号、および今年度の名簿をお渡しする予定です。

ご欠席の方へは、例会終了後、今年度の紀要、名簿とともに、年会費用の振替払込用紙をお送りします。

昨年度までの年会費が未納の方には個別にお願いを差し上げますので、お手続きをお願いいたします。2年間未納の場合は「自然退会」となりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

≫ 新入会員

佐古 敏子(さこ としこ) 大阪大学大学院生

## 英学史学会全国ニュース

≫ 「日本英学史学会報」No.136

2015年5月1日発行。次の記事などが掲載されています。

《巻頭言》学会の社会に対する貢献(塩崎 智)

《英学史散策》

- ・わたしは雑学を恥としない(北垣宗治)
- ・日本英学史学会広島支部創設のころ(竹中龍範)
- 《英学史手帖》
- ・「浅田栄次没100周年記念行事」について

(保坂芳男)

※本部事務局発行の「日本英学史学会報」を閲覧希望の方は、支部事務局までご連絡ください。パソコンでの閲覧をご希望の方には、PDFファイルを無料で提供いたします。

※日本英学史学会(本部)の会員登録には、中国・四国支部とは別に手続きが必要です(入会金2,000円、年会費7,000円)。

≫ 第52回全国大会

平成27年10月24日(土)・25日(日)  
拓殖大学文京キャンパス(東京都文京区小日向)  
にて開催予定

## 英学史情報ひろば

◇第172～176回「広島ラフカディオ・ハーン研究会」  
ニュース(2014年12月～2015年4月)

◇日本英語教育史学会第31回全国大会

平成27年5月16日(土)・17日(日)

久留米工業高等専門学校(福岡県久留米市)にて

【支部会員による研究発表】

「明治期英文典独習書の分析研究」 馬本 勉

「満洲医科大学予科入学試験(英語)の解析」

田中正道

「日本英語音声教育史：大谷正信が伝えた

Daniel Jones の音声学講義」 田邊祐司

「電機学校の英語」 河村和也

「日本陸軍の外国語教育と情報活動」 江利川春雄

◆日本英語教育史学会のウェブサイト

<http://hiset.jp/>

広島英学史の周辺(48) 明治期の英語独習書を集めたデータベースを作成しています。訳述者のひとりに

「林 十次郎」という名がありました。号は「林 朴堂」。

ナショナル、ロングマン、ユニオンなどの読本独案内、

ローヤル読本やカッケンボス合衆国史の直訳を出しています。奥付に「広島県士族」とありますので、広島

ゆかりの英学者のひとりに加えたいと思います。▼国

文学研究資料館「近代書誌・近代画像データベース」

によると、鶴声社が出していた『演説撰誌』第10号(明

治15年11月)、第12～15号(明治16年1月～2月)

の編輯兼印刷長として林の名前が掲載されています。

▼鶴声社というのは...と、ウェブ上を彷徨う時間的な

余裕が今はありませんので、いずれ腰を据えて調べて

みたいと思います。もし「林 十次郎」についてご存知

の方があれば、ぜひ情報をお寄せください。▼男気に

沸くスタジアム。記憶に残る年となりますが、記録も

まだあきらめません。「信じて待つ」のがカープファン。

▼では皆様、総会・例会でお会いしましょう。(馬)

日本英学史学会中国・四国支部ニューズレター No.82

2015年5月5日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 田村 道美)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: 0824-74-1725(研究室直通)

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.82 May 5, 2015